

---

# \*恋する色\*

優香

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

\*恋する色\*

### 【Nコード】

N1400B

### 【作者名】

優香

### 【あらすじ】

あたし、沙羅。 中学3年生。 だいま同じクラスメイトの河合比呂に片思い中〜でもって、あたしの親友の有は、三年の女子の中で一番可愛い。 あたしは、有と自分を比べてばかり・・・比呂と沙羅はいつもケンカばかりで沙羅は、比呂が自分のことを好きになっくれるか少々不安になったりも・・・こんな沙羅は比呂と楽しい生活がおくれるのか!?

## 第1話・あたしの色（前書き）

読者サンに一言いいマス。

優香の小説が気に入らないなら読まなくていいデス。

アドバイスとかお願いします。ちなみに優香は小学生なので上手く書けないので、アドバイスをいろいろ

してください。

## 第1話・あたしの色

人は絶対に恋をするよね・・・あなたの恋の色は何色？あたしは、ピンク。

人によつて恋の色はちがうよね。そんなの当たり前。だつて辛い恋だつたら水色でしょ・・・

恋をするつて大事なんだよ。だつて、恋しなきゃ楽しい日々なんてないよ・・・あたしは、そう信じてるよ・・・でもさ、中には恋なんてしなければよかつたつて言う人もいるよね。

あたしは、そんな事思わないよ。失恋したつていろんな思いが出来たでしょ。それに、それを乗り越えているんな気持ちができる事が大事なんだよ・・・こんなあたしは、今日も恋という戦いが始まる・・・

「沙羅——おはよお」

あたしの後ろから声が聞こえてきた。

「有！おほよおー」

あたしは、有に挨拶を返した。（有とは、沙羅《主人公》の親友で  
はやかわ ゆう  
早河有）

「ねえ、有ねさつき良い物みちやったあ〜」

「えっ！？良い物つて!?!」

「河合比呂見ちゃったー！」（河合比呂とは、主人公の好きな人）

「えーいいなあ．．あたしも見たかったなー」

「ねっいいでしょ！有も比呂くんの事好きになろっかなあ？」

「ちよつと有!?!それはダメーあたしが始めに比呂の事好きになっ  
たんだからね！」

もう、比呂はぜつたいにとられたくないんだから。有はすぐあたし  
の好きになった人好きになるんだからあ．．．

「わかったよおーちえ．．」

「ちえじゃないのお」

「へいへい」

ってゆうか、有に勝てる自信がないだけ．．．有はうちの中学校の

三年の女子の中で一番可愛いから。あたしと有をくらべると、月とスッポンって感じ・・・

キンコーンカーンコーン

「有、やばいよーチャイムなっちゃったよー」

「ほ、ほんとだあ！沙羅、いそぐよー！」

「うん」

ダ

「はあはあ。有、セーフで間に合ったね・・・」

「う。うん・・・」

「お前ら、息きれすぎ・・・」プッ

あたしたちの横から聞こえた声は彼だった。そう、河合比呂の声だった。

「だ、だって外から教室まで走ってきたんだもん・・・」

「お前デブだし辛かっただろー」

はっ！？こいつなに言ってるんだよ！好きな人に言われるのきついんですけど・・・

本当に無神経な奴・・・

「比呂君。ダメだよ、そういう事いつちや・・・沙羅デブじゃないよ！細いじゃん・・・」

「んえ？沙羅って細いのか・・・？有と比べたらデブだろ？」

こいつめ！人の気もしらんでズバズバと・・・有にフォローされてもなんか意味ないような・・・

「だから、比呂君。沙羅はデブじゃないの」

「ねえ、ねえやっぱさあー比呂君はイケメンだし有ちゃんは可愛いしあの二人って絵になるよねー」ひそひそ・・・

たしかに・・・あの2人って絵になる・・・あたしなんか有と比べたらクズだよな。

比呂もやっぱり有みたいなのがタイプなのかな・・・

「おいつ沙羅。お前さあ何1人で固まってんの」

「えっあたし固まってた・・・？」

「おう。なんかブツブツ言ってたぜ」

「え！？マジ！？なんて言ってた？」

「体重が43キロってデブかなあ？とか言ってたぜ」

「げっあ、当たってる・・・あたし、いつのまにかそんな事まで  
いってたのぉ・・・どうしよう・・・」

「って、固まってるって事は凶星！？冗談で言ったんだぜ」

ピチっ

「なあ、有なんか音しなかったか？」

「うん。してた。なんかピチっという音が・・・」

「ひ、比呂おー！！！！このバカ　　ー！！！！！！！！！！」

「うおっこの女凶暴ー誰か助けてー」

今は、こんなんでもいい。ただ比呂といればいいんだ・・・

気持ちを伝えなくても、一緒にいれればいい。今のあたしの願いは  
比呂とずっと

一緒にいる事だから。比呂は、あたしと居たいと思ってるかな・・・？  
比呂のココロに居るのがあたしならいいな・・・



.....

どーも初めまして！優香デス。話、どうでしたか・・・??  
まだまだ未熟デスが見守ってくれれば嬉しいデス

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1400b/>

---

\*恋する色\*

2010年10月23日12時29分発行